

発表項目 (行事名)	津波からの避難意識向上のための啓発教材用動画について												
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者											
		発表場所											
概要	<p>道では、令和4年7月に公表した「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定」を踏まえ、巨大地震が発生した際に想定される事象を、<b>住民の皆様お一人お一人が冷静に受け止め「正しく恐れる」</b>ことができるよう、津波の動きや被害の規模等を明らかにし、<b>正しい知識に基づき、迅速かつ的確な避難等の対応を身に付けていただく</b>ことを目的として、啓発教材用の動画を作成し、<b>11月16日(木)0時からインターネット配信を開始</b>します。</p> <p><b>1 構成等(内容・時間)</b>  (1) 3部構成(地震や津波の仕組み、被害想定、命を守る5つのポイント)  (2) 約15分半(太平洋沿岸地域の振興局単位で全6パターンを作成)</p> <p><b>2 動画の特徴等</b>  住民の皆様が、<b>被害想定を「自分ごと」として受け止め、早期避難等の重要性、低体温症によるリスクや対処方法等</b>への理解が深まるよう工夫して作成。  (1) 被害想定を身近に感じられるよう、<b>39市町毎の津波遡上CG、3D浸水ハザードマップ、主な施設の浸水イメージ画像</b>を作成し紹介  (2) <b>津波から命を守るためのポイントを5つに絞り紹介</b>  ①率先避難、②高台等への避難、③倒壊物に近づかない、  ④避難場所から離れない、⑤低体温症への備え  (3) <b>積雪寒冷地特有の課題への備えや対処方法</b>を紹介  ・低体温症のリスク →事前の防寒対策、保温・加温・食事等</p> <p><b>3 協力機関</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>協力機関名</th> <th>協力内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(国研)寒地土木研究所</td> <td>3D浸水ハザードマップ作成の技術提供</td> </tr> <tr> <td>日本放送協会札幌放送局</td> <td>AR技術を活用した浸水イメージ画像の作成</td> </tr> <tr> <td>特別強化地域39市町</td> <td>上記画像で使用する写真の撮影・提供</td> </tr> <tr> <td>北海道立総合研究機構</td> <td>GPSを活用した避難行動の検証動画の提供</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4 活用方法等</b>  (1) <b>危機対策課YouTubeチャンネルで広く公開</b>  URL <a href="https://www.youtube.com/@user-hmlez7im7v">https://www.youtube.com/@user-hmlez7im7v</a></p>  <p>(2) 今後、住民の皆様幅広く周知・普及していくため、太平洋沿岸の振興局単位で、<b>自治体職員や地域の防災リーダー等を対象とした講師養成講座を開催予定</b>(実施時期：令和6年1月～2月)</p>			協力機関名	協力内容	(国研)寒地土木研究所	3D浸水ハザードマップ作成の技術提供	日本放送協会札幌放送局	AR技術を活用した浸水イメージ画像の作成	特別強化地域39市町	上記画像で使用する写真の撮影・提供	北海道立総合研究機構	GPSを活用した避難行動の検証動画の提供
協力機関名	協力内容												
(国研)寒地土木研究所	3D浸水ハザードマップ作成の技術提供												
日本放送協会札幌放送局	AR技術を活用した浸水イメージ画像の作成												
特別強化地域39市町	上記画像で使用する写真の撮影・提供												
北海道立総合研究機構	GPSを活用した避難行動の検証動画の提供												
参考													

報道(取材)に当たってのお願い	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生が切迫していることから、地域の住民の皆様へ意識醸成の働きかけが重要になりますので、積極的な報道をお願いします。
他のクラブとの関係	同時配付：(場所) 同時レク：

担当(連絡先)	総務部危機対策局危機対策課(担当者：課長補佐 葛西) TEL ダイヤルイン 011-206-7804 内線22-588 公用スマホ 011-585-6240 内線10994
---------	--